理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1

10・1教育研究集会に向けて
各部会のとりくみ

＜一部会＞

小学校・中学校とも昨年度の研究を継続し、取り組んでいる。二年目ということもあり、順調に進み、成果も上がりつつある。

○小学校低高学年部会

主題　自然への感受性を豊かにする理科指導はどうあるべきか

――自然事象へのかかわりを大切にした環境教育への取り組み――

一学期に各学年の授業実践を行った。環境教育については、文部省から指導資料が発行されたり、千葉県でも力を入れて取り組んでいることは知られており、佐倉市においても今年度重点的に研究している領域でもある。理科の学習指導の本質をふまえて、実りのある研究をしていきたい。

○中学校部会

主題　自然に対する興味関心を高めるにはどうしたらよいか

――生物分野での発生遺伝の観察実験を通して――

発生遺伝など、日常的に見られない現象を、生徒実験で、しかもだれがやってもできるよう研究をすすめている。

小中とも共同研究で取り組んでいる。苦しくも楽しい時間である成果を提案できるよう努力したい

＜二部会＞

二部会では、《小学校》研究主題『子どもの興味・関心を高める理科指導はどうあるべきか』――人体に関した単元を通して――《中学校》研究主題『身の回りの自然現象に興味関心を高める効果的な指導法の研究』――パソコンの効果的な利用と光の学習――を設定し、今年度二年目の研究に取り組んでいる。

小学校では、三年「わたしたちのからだをしらべよう」、四年「人の体と運動」、五年「動物や人のたんじょう」、六年「体のつくりとはたらき」の分野である。三年五年の授業実践と指導状況調査の考察、四年六年の指導計画の検討、教材教具の調査・開発に取り組んでいる。新学習指導要領が実施され、体験重視の傾向が一段と強まってきており、理科学習にあっては、これまでも実験・観察を通した学習が行われてきたわけであるが、さらに直接体験の機会を増やしていかなければならないと考え、実践している。

中学校では、新しくはいってきた「光の学習」に関して、昨年度の教材の分析やアンケート調査結果に基づき、指導計画を立て、授業実践、まとめの段階にはいっている。

＜三部会＞

小学校部会

研究主題

「植物の特徴と環境のかかわりに目をむけさせる指導の工夫」

主に三年「草花の育つようす」四年「季節と生きもの（春）」五年「実や種のでき方」六年「植物のつくりとはたらき」の単元を取り上げ、教科書に出てくる素材のほかに身近にあるそれぞれの指導に適した素材がないか研究し、それらの素材から植物をとりまく外的環境（温度、日光、土、水、空気）とのかかわりに目をむけさせ、植物の動物にないすばらしさや特徴に気づかせる授業実践に取り組んでいます。

中学校部会

研究主題

「生徒の興味関心を高める授業はいかにあるべきか」

この研究主題に取り組んで五年目になり、本年度は今までの研究のまとめになります。開発した実験を効果的に授業に活用することまた、過去の仮説に加え、「普段の授業に用いられない実験材料や実験が効果的である」という仮説をたて、液体窒素を使った実験の開発と授業実践に取り組んでいます。

＜四部会＞

中学校

昨年の研究の継続である。

八街市内の小・中学校にアンケートを実施して、実際に河川の水質調査や杉の形態の調査などを行っている。調査した結果を通してどの程度自然の地域が残っているのか調べて、授業に生かすなど積極的に取り組んでいる。

小学校（高学年）

発表者　二州小　富谷
　　実住小　水野

『自然事象への関心・意欲・態度を伸ばす理科指導』について、五年生の天気の変化の単元について取り組んでいる。

今年は、三年目でまとめの年である。

八街地区の天気に関する言い伝えや動植物の観察などから、天気の変化について、児童の興味・関心を引き出している。

小学校（低学年）

発表者　八街北小　木村
　　二州小　杉本

「地域の環境を取り入れた理科指導のあり方は、どうあるべきか」――環境に対する豊かな感受性や見識を持つ人づくりをめざした――

今年から取り組みをはじめている。身の回りの社会や自然事象に目を向け、がんばっている。

＜五部会＞

「夜空の星を見て、何も感じないような子どもに育てたくない」これが今回の研究のはじまりでした。知識偏重から直接体験の重視へと時代は確実に流れていますがその直接体験重視の行き着く目標は、現段階では問題解決能力などの能力的目標が中心であって、情意的目標はまだまだ付け足しにすぎないように思われます。しかし本来は「自然に親しみ」（小）、「自然に対する関心を高め」（中）が目標の冒頭にあるように情意的目標が理科の根底にはなくてはならないと考えます。そこで、私達五部会では、情意的目標に重点をおいた研究に取り組むこととし、次のような小・中共通の主題を設定しました。

「一人一人の理科的心情を育てるための理科指導はどのようにしたらよいか。」

この小・中共通の主題を受けてそれぞれの発達段階に応じて、理科的心情について、小学校では低・高ともに「自然の事物・現象に感動する心」、中学校では「科学的探求心」というとらえ方をし、今年度は、アンケート調査等の実態調査からその定義付けを行い、今後の方向性を見いだし実践のための準備段階とする予定です。

＜事務局より＞

当日、「郡理科作品展の優秀作品の展示」及び「理科実験器具の展示」も併せて行います。

なお、会場成田小学校には、車は入れません。また、履物は各自でご用意ください。

研究集会後、懇親会を予定しております。詳しくは各部会の部長さんまでお願いします。

千教研理科研究発表大会
印旛大会のご案内

各校にご案内の文書がまもなく届くかとは思いますが、千教研理科研究発表大会（印旛大会）のご案内をさせていただきます。

この大会は、千教研及び千教研理科部会主催で県内各地区を会場に理科教育の充実を図ることを目的に行われているものであり、三十回目をむかえる今大会は、佐倉小・佐倉中を会場に、十月二十日に行われます。

多数の先生方の参加をお願いします。

主題
〔県〕　「自然とのふれあいを重視した理科教育」
〔佐倉小〕「自然事象を見つめる目を育てる理科学習はどうあるべきか。」
〔佐倉中〕「自ら学ぶ態度と能力を育成する理科指導はどうあるべきか。」
(1)佐倉小学校　授業展開　13学級（生活科4学級　理科8学級　特殊1学級）
(2)佐倉中学校　授業展開　4学級
＊小学校部会は会場校研究発表後、佐倉中学校へ移動し昼食となります。
全体会は佐倉中学校体育館で行います。
講演　講師　東京大学地震研究所　教授　藤井　敏嗣　先生
　　演題　「地球進化とマグマ」